

プラッツドバイ原油

Platts Dubai Crude Oil

「プラッツドバイ原油 Platts Dubai Crude Oilのご案内（以下「本冊子」という。）」に関する著作権は、株式会社東京商品取引所（以下「東京商品取引所」という。）にあります。本冊子の一部又は全部を無断で転用、複製することはできません。

本冊子は、東京商品取引所の先物取引に関する制度の概要説明のみを目的として提供されるもので、先物取引の勧誘を目的としたものではありません。先物取引においては、相場の変動等によって損失が生じるおそれがあり、差し入れた証拠金の全部若しくは一部を失う、または、差し入れた証拠金を超える損失を被ることがあります。

また、相場変動等により証拠金額に不足が生じた場合には、追加の差し入れが必要となります。お取引に際しては、あらかじめお取引先の金融商品取引業者等により交付される契約締結前交付書面等の書面の内容を十分にお読みいただき、商品の性質、取引の仕組み、リスクの存在、手数料等を十分に御理解いただいたうえで、御自身の判断と責任で取引を行っていただきますよう、お願いします。

また、本冊子に含まれる記述などの使用に関し、東京商品取引所は一切責任を負いません。東京商品取引所は本冊子に記載の事項に関し、将来予告なしに変更することがあります。

金融商品取引業者等使用欄

原油投資の魅力

原油は、燃料としてはもちろん、プラスチックや繊維などの工業製品の原材料として、工場や家庭など様々な場面で使用されており、私たちの社会・経済・生活において必要不可欠なエネルギー資源として位置付けられています。

原油価格は世界各国の需給状況のほか、国際的な政治経済情勢、地域紛争やテロ、為替変動など、日々世界で起きているあらゆる事象に敏感に反応するため、投資先として魅力のある商品です。日本は輸入する原油の90%超を中東産原油に依存しており、東京商品取引所 (TOCOM) はこの中東産原油の基準価格となるドバイ原油を上場しています。

ドバイ原油は、世界的な価格調査機関であるS&P Global社が発表する価格が現物の価格指標となっていますが、この価格は実質的にTOCOMの原油先物市場価格のベースとなっています。このことから、TOCOMは中東産原油の価格に影響を与える重要な役割を担っており、投資家の皆様がTOCOM原油市場で投資をすることは中東産原油の価格決定に参加することにもなるのです。

中東産原油価格の決まり方

- ▶ 中東産油国のアジア向け原油輸出価格は、S&P Global社が日々発表する原油のスポット (現物) 価格等に基づき決定される。
- ▶ S&P Global社が発表するドバイ原油スポット価格は、日々のTOCOMプラッツドバイ原油先物価格も参考にされている。
- ▶ TOCOMプラッツドバイ原油先物の最終決済価格は、S&P Global社が日々発表するスポット価格の月間平均価格を採用している。

日本時間		12	13	14	15	16	17
取引所	取引時間 (現地時間)				TOCOM 帳入値段確定 (15:15)		
TOCOM	日中: 8:45~15:15 夜間: 16:30~翌6:00						
プラッツ* (シンガポール)	16:00~16:30 (シンガポール)	-1時間					

TOCOMプラッツドバイ原油先物の最終決済価格に採用

アジア向け中東産原油価格のベンチマーク

TOCOMの帳入値段やリアルタイム価格を参照

東京商品取引所 (TOCOM) のドバイ原油市場では、石油会社や金融機関、ファンド、商社、プロップファーム、投資家など、国内外の多種多様なプレーヤーにより時々刻々と取引が行われており、ドバイ原油に関するファンダメンタルズや将来の見通し等の情報が的確に反映された価格が形成されています。



1 受渡しがない商品設計でデリバリーを気にせずに取引できます

プラッツドバイ原油の先物取引は、現金決済先物取引を採用していることから、取引の最終期限までポジションを保有していた場合には、全て金銭の授受によって取引を終了します。従来の現物先物取引を採用する商品先物取引は、取引の最終期限まで市場離脱しない場合には受渡しによる決済が必要でしたが、プラッツドバイ原油はこのようなリスクはありません。

2 「買い」からでも「売り」からでも取引できます

価格が上昇しそうだと予想すれば「買い」から、反対に価格が下落しそうだと予想すれば「売り」から取引を始めることができます。

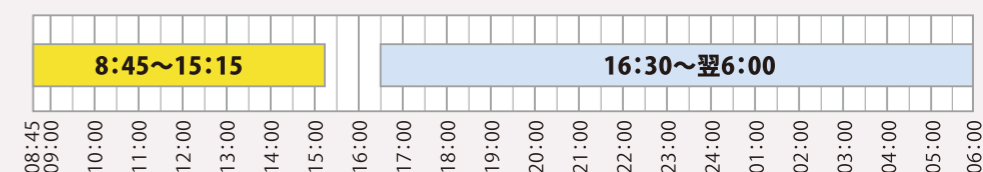
3 レバレッジ効果で資金効率の高い投資

プラッツドバイ原油の先物取引は、証拠金取引であるため、レバレッジ効果により資金効率の高い投資ができます。このため、投資家は大きな利益を得ることができますが、予想とは反対の値動きになった場合には、損失が大きくなることにも注意が必要です。

4 夜間の取引も可能

TOCOMの取引時間は、休業日を除く8:45~15:15、夜間:16:30~翌6:00 都合のよい時間に合わせて取引を行うことができます。

*金融商品取引業者等によって取扱時間が異なる場合があります。



5 取引所取引なので安心

取引が行われるTOCOMは、経済産業大臣の許可を受けた公的な取引所です。取引の決済の履行は清算機関が保証し、さまざまな投資家保護制度も完備されています。

原油価格の主な変動要因

原油は需要と供給のバランスが最大の価格決定要因となります。過去、中国など新興国の経済成長に伴って石油需要の著しい増加が認められた際には原油価格が高騰した一方、近年では米国のシェールオイル生産の増加、パンデミックによる世界的な石油需要減退で原油価格は急落しました。そして、ロシアによるウクライナ侵攻で原油価格は高騰しました。原油価格を展望するうえで、価格変動要因を常に把握して変化を上手く捉えることが重要といえます。

1 米国シェールオイルの生産状況(稼働リグ数など)

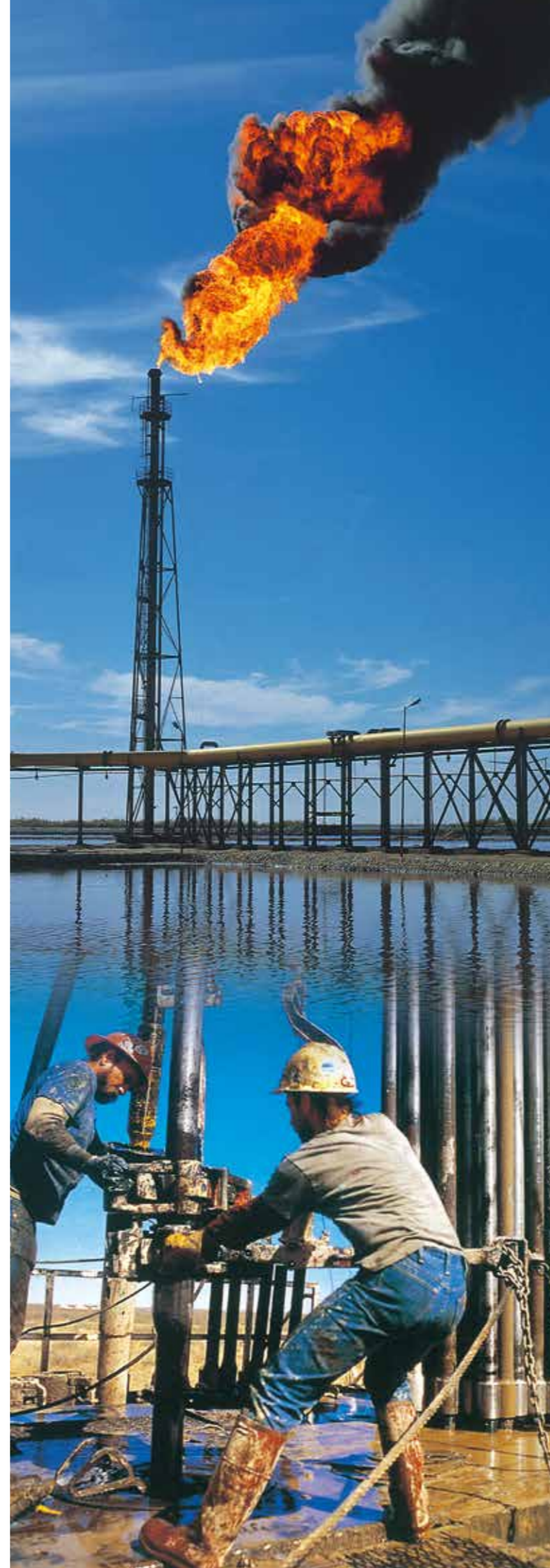
シェール革命により2014年には米国が世界最大の産油国となり、米国のシェールオイルの動向は原油価格の行方を判断するうえで大きなウェイトを占めるようになりました。米国のシェールオイルの動向を探るにはリグ稼働数が先行的な指標となります。リグ稼働数はシェールオイルの開発のために掘削を実施している装置の数を表しており、実際にシェールオイルの生産が開始されるのは掘削開始から約半年程度先となりますが、リグ稼働数の変動のみで原油相場の変動要因になることがあります。

2 OPECの動向

主要原油生産国により構成される石油輸出国機構(OPEC)は、世界の原油生産量の約40%を占め、加盟国が協調してOPEC全体の産油量や国別産油量の設定などの供給調整を実施、原油市場に対する影響力を保有しています。例えば、原油価格が大きく下落した際にはOPEC総会で協調減産を決定、実施することで、原油価格の浮揚効果をもたらしました。なお、近年では、OPECに加盟していないロシアなどの産油国でも原油生産量が増加、世界原油需給に対する影響力を強めていることから、OPECはそれら非加盟国とも連携して“OPECプラス”を結成、協調して減産や増産を実施しています。

3 非OECD諸国の需要

2000年以前の原油消費の中心は経済協力開発機構(OECD)加盟国(主に先進国)であり、全体の60~70%割を消費していましたが、その後、非OECD諸国(主に新興国)が高い経済成長を背景に消費量を拡大させ、現在では非OECDのシェアは50%以上を占めています。非OECDによる消費拡大は中国が牽引役となっており、インドやブラジルなどの消費も増えてきています。こうした国々の経済成長が原油価格に影響を与えるようになってきており、これらの需要動向にも注意が必要です。

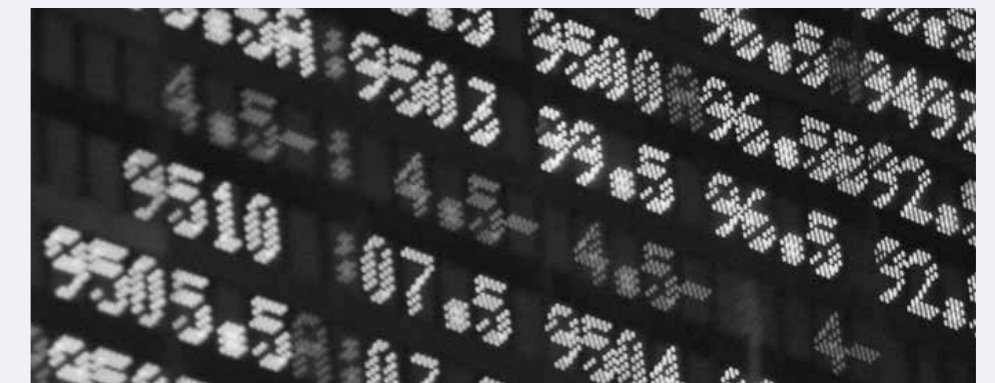


4 米国の在庫状況

米国は世界最大の原油消費国であるとともに、世界最大規模の生産国でもあることから、その消費と生産の動向は原油の価格形成に強い影響力を持っており、その実態は、米国エネルギー情報局(EIA)が毎週水曜日に発表する原油在庫量で捉えることができます。EIAが発表する原油在庫が増加すれば価格低下要因となり、また、減少すれば上昇要因となりますが、他の経済指標のように事前予想値と発表数値との相違幅もポイントとなります。

5 WTIの建玉

原油価格の指標の一つであるWTI原油を上場しているニューヨーク・マーカンタイル取引所(NYMEX)における取引状況について、米商品先物取引委員会(CFTC)が毎週金曜日の取引終了後にカテゴリ別建玉として発表しています。同報告は現地時間の毎週火曜日の取引終了後にNYMEXから報告されたものを集計しており、特に、大口投機玉の建玉動向は大きく注目され、大口投機玉の買玉又は売玉の増減で原油価格が左右されることがあります。

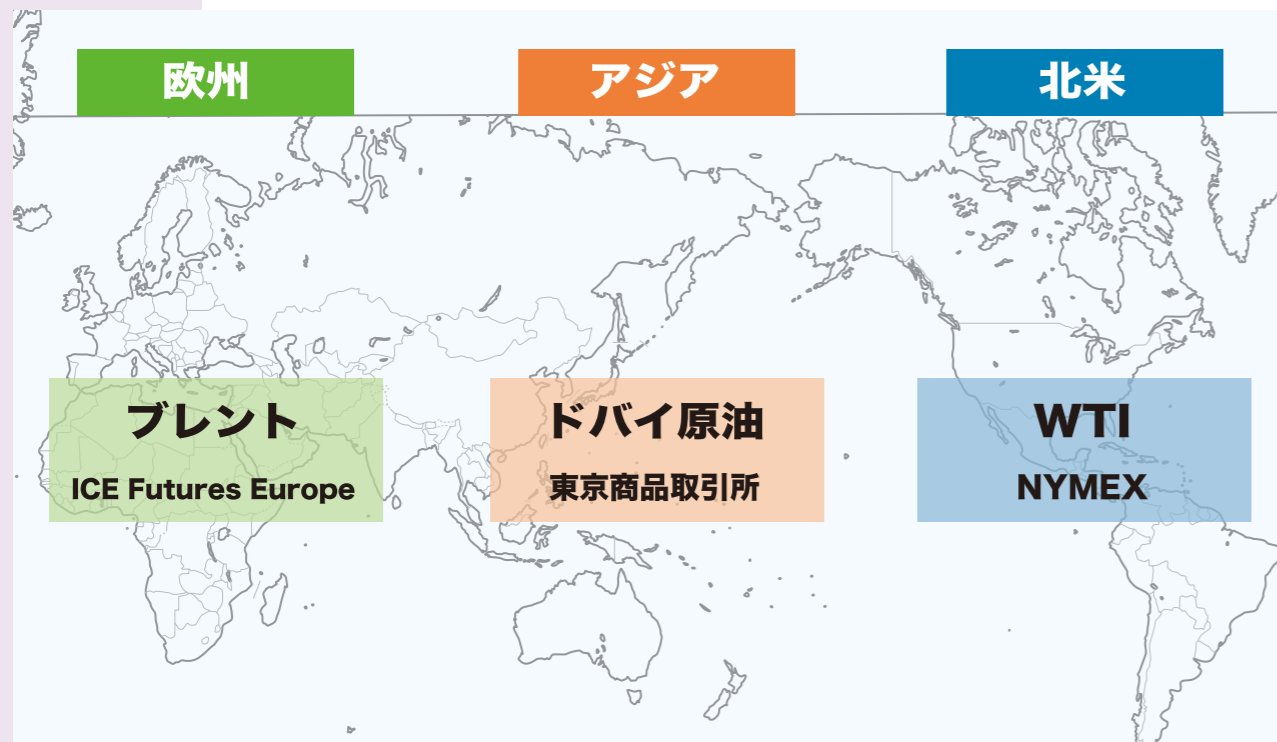


6 その他の要因

その他の変動要因としては、世界景気を敏感に反映する株価や、原油の国際取引でベースとなっている米ドルをはじめ、ユーロや日本円などの為替相場、更には、近年、機関投資家による資金流入が活発な原油価格に連動する投資信託(原油ETF・ETN)といった金融市場の動向と、それらに影響を与える経済動向や日々のニュースに注意を払う必要があります。また、産油国の多くが中東地域、アフリカ地域、南米地域に位置し、いずれも歴史的に政治・宗教・民族的な問題を抱えていることから、それら地域の政治情勢や地域紛争などに注意する必要があります。加えて、中長期的には地球環境問題に配慮して、“脱石油”の動きが進展するのかなど、エネルギー需給構造そのものがどう変化していくのかにも注目する必要があります。

世界の石油市場

世界の石油市場は、域内の石油消費を背景に、北米、欧州、アジアの三大市場が形成されています。



北米

北米市場では、ニューヨークのNYMEXにおいて原油や石油製品、天然ガスなどの先物取引が行われています。ここで形成された先物価格は北米の価格指標となり、現物の価格形成に影響を与えています。

特に、NYMEX で上場されているWTI原油先物は、石油先物取引の中で一商品としては世界最大の出来高を誇っており、北米地域のマーカー原油となっています。

欧州

欧州市場では、ロンドンのICE Futures Europe において北海油田で生産されるブレント原油をはじめ、天然ガス、ガスオイルなどの先物取引が行われています。ブレント原油は、NYMEXのWTIと同様に高い流動性が確保され、欧州地域のマーカー原油となっています。

アジア

アジア市場では、中東産原油の流通が最も多く、そのマーカー原油はドバイ原油及びオマーン原油です。東京商品取引所 (TOCOM) は、ドバイ原油の価格を指標とする中東産原油を上場しています。ドバイ原油は、アラブ首長国連邦 (UAE) のドバイで産出される原油で、仕向地の制約がないことから、スポット取引が活発に行われています。

プラットドバイ原油の制度概要

取引の種類	現金決済先物取引
現金決済先物取引の対象	ドバイ原油の価格を指標とする中東産原油
呼値の単位	1キロリットル当たり10円刻み
取引単位	50キロリットル(1枚)
最終決済価格	当該限月のドバイ原油の平均価格
限月	直近15限月
取引最終日	当月限の属する月の最終営業日(日中立会まで)
最終決済日	当月限の翌月第一営業日 ※取引最終日までに決済しなかったポジションは最終決済価格により決済します

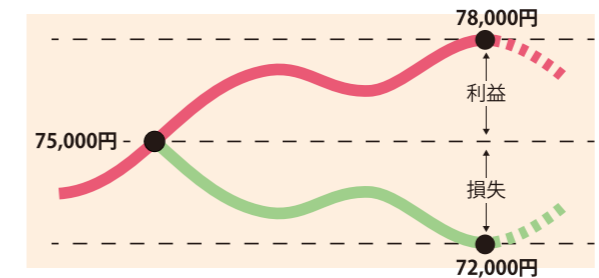
* 祝日取引実施日はJPXウェブサイト参照。 参考: <https://www.jpjx.co.jp/derivatives/rules/holidaytrading/index.html>



取引の計算例

<「買い」の例>

原油価格の上昇が予想されたため、プラットドバイ原油中心限月を1KL当たり75,000円で5枚買い、その後78,000円まで上昇したので転売して決済しました。(赤線)



$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差益金)} \\ (78,000\text{円} - 75,000\text{円}) \times 50\text{KL} \times 5\text{枚} = & \mathbf{750,000\text{円}} \end{matrix}$$

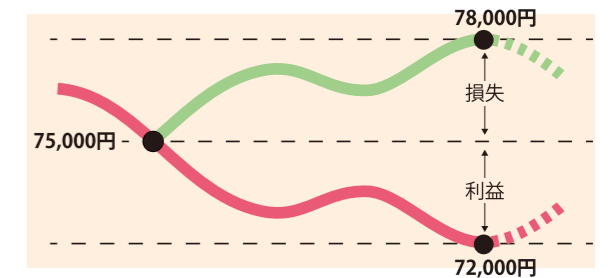
逆に価格が72,000円まで下落して決済すると(緑線)

$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差損金)} \\ (72,000\text{円} - 75,000\text{円}) \times 50\text{KL} \times 5\text{枚} = & \mathbf{\Delta 750,000\text{円}} \end{matrix}$$

※上記計算例には手数料及び消費税は含まれていません。

<「売り」の例>

原油価格の値下がりが見込まれたため、プラットドバイ原油中心限月を1KL当たり75,000円で5枚売り、その後72,000円まで下落したので買い戻して決済しました。(赤線)



$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差益金)} \\ (75,000\text{円} - 72,000\text{円}) \times 50\text{KL} \times 5\text{枚} = & \mathbf{750,000\text{円}} \end{matrix}$$

逆に価格が78,000円まで上昇して決済すると(緑線)

$$\begin{matrix} \text{(売値)} & \text{(買値)} & \text{(取引単位)} & \text{(取引数量)} & \text{(差損金)} \\ (75,000\text{円} - 78,000\text{円}) \times 50\text{KL} \times 5\text{枚} = & \mathbf{\Delta 750,000\text{円}} \end{matrix}$$

※上記計算例には手数料及び消費税は含まれていません。

プラットドバイ原油の損益早見表

(単位:円)

枚数 \ 値幅	500円	1,000円	1,500円	2,000円	2,500円	3,000円	3,500円	4,000円	4,500円	5,000円
1枚	25,000	50,000	75,000	100,000	125,000	150,000	175,000	200,000	225,000	250,000
5枚	125,000	250,000	375,000	500,000	625,000	750,000	875,000	1,000,000	1,125,000	1,250,000
10枚	250,000	500,000	750,000	1,000,000	1,250,000	1,500,000	1,750,000	2,000,000	2,250,000	2,500,000
20枚	500,000	1,000,000	1,500,000	2,000,000	2,500,000	3,000,000	3,500,000	4,000,000	4,500,000	5,000,000
30枚	750,000	1,500,000	2,250,000	3,000,000	3,750,000	4,500,000	5,250,000	6,000,000	6,750,000	7,500,000

※差損益=値幅×倍率(50倍)×枚数
※手数料及び消費税は含まれていません。